

## にこ 二胡の癒しで 研究のエネルギーをチャージ



**村上匡且 (むらかみ まさかつ)**

レーザーエネルギー学研究センター教授

みなさんは二胡という楽器をご存知でしょうか？三国志の時代（西暦 200 年頃）から存在すると言われ、わずか2本の弦で5オクターブもの音域を奏でられる中国発の楽器です。また、この世で最も「人の声」に近い音色だと言われています。

村上匡且教授は、10 年ほど前から二胡の演奏を始め、現在では中国の伝統的な二胡音楽から西洋民謡、日本童謡まで幅広いレパートリーをお持ちです。「国籍を問わずいろんな人に楽しんでほしい」という村上先生に、二胡の魅力を伺いました。

### ▼二胡との出会い、きっかけは何ですか？

約 10 年前に国際会議の余興を企画している中で聴いた DVD で、初めて二胡の音を耳にしました。もの悲しくて深い音色がとても印象的で、頭から離れませんでした。

私の大好きな曲は、「二泉映月」<sup>にせんえいげつ</sup>。この曲は、中国の二胡奏者の阿炳<sup>あへいん</sup>（1893 - 1950）が作曲した、中国では非常に有名な二胡曲です。作者の不遇な人生を反映した曲調に心揺さぶられ、何としても自分で弾けるようになりたいと思いました。ただ、独学や近くのカルチャーセンターの講座のレベルでは到底弾けるような曲ではないので、インターネットで北摂在住の中国人の先生を探し出し、個人レッスンをお願いしました。「あなたにはまだ早い」と最初は指導を断られました。私の熱意を受け入れてくれて、2〜3 年ほど通い、人前で演奏できるまでになりました。



### ▼印象的なエピソードはありますか

「東洋の楽器を持ってるならぜひ弾いてみて」と言われ、ロシアで出席した国際会議の晩餐会で初めて人前で演奏した時のことです。二胡は気分転換のために持参していただけだったので、200 名もの参加者を前にして頭が真っ白になり、結果は散々。「人前で徹底的に恥をかく事こそ上達への近道」と悟り、会場からホテルまでの帰り道、ストリートミュージシャン風に道端で演奏しました。最初は恥ずかしかったのですが 30 分ほど弾いていると慣れてきて、終いには 100 人ぐらいの人ばかりができていました。私の大好きな「二泉映月」を弾いたとき「こんないい曲を聴いたのは初めて」と溜め息をつきながら話しかけてくれる人も。そんな一言がすごく嬉しく、大変励みになりました。

### ▼どんな研究をされていますか？

レーザー核融合、レーザーによるプロトン加速といったテーマに関する理論的研究をしています。最近の大きな研究成果としては、炭素繊維素材「カーボンナノチューブ」を加速器代わりとして水素イオン（プロトン）を高速で射出する方法を発見したことです。昨年 4 月にプレスリリースし、全国紙をはじめ、多くのメディアに取り上げられました。最近では国際会議や海外の大学などから、多数講演依頼を受けています。今後この研究の応用が進むと、これまで大規模な施設が必要だった癌の放射線治療や自動車用の燃料電池開発などをコンパクトに実現する事ができ、様々な医療・産業応用が視野に入ってきます。

### ▼先生にとって二胡とは何でしょうか？

私にとっての二胡は「癒し」です。研究上の全く新しいアイデアが浮かぶのは、通常、リラックスし研究とは関係のないことをしている時です。二胡がどれだけ研究に通じているかは自分でも分かりませんが、精神的な癒しを与えてくれることだけは確かです。将来、仕事としての研究はやめても、趣味としての二胡は弾き続けると思います。



今では海外での国際会議での余興や、時折ストリートで演奏することも。